

林野庁 近畿中国森林管理局

箕面森林環境保全ふれあいセンター・こだま通信



箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、主に京都、大阪の都市周辺の国有林野をフィールドとして、NPO、ボランティア、地域住民等による自主的な森林づくり、里山の整備、自然再生活動、森林環境教育などへの技術指導等の支援に取り組んでいます。

「箕面体験学習の森」整備事業
～「オオクワガタの棲める森づくり」の取組～

その1. 箕面市立豊川北小学校・萱野北小学校合同イベントを開催

11月2日(月)、豊川北小学校の4年生66名と萱野北小学校の4年生58名を対象に、箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」において、京都大阪森林管理事務所、地元ボランティアの支援も得ながら合同イベントを開催しました。

イベントは、①林内におけるクヌギ、コナラのドングリ拾い、②ドングリのポット埋め込み、③兵庫県立大学教授の服部保氏から「ドングリからの森づくり」と題し、パワーポイントを使い、昔話の中の里山やクワガタなどの昆虫、ドングリの話し、④更に、萱野北小学校は、森林ボランティアの協力で作製した昆虫ベッドへの落ち葉入れや木の輪切りなどを使った木工クラフトも取り入れ、森林環境教育として盛りだくさんのイベントとしました。参加した先生からは、「子どもたちには楽しい体験となった。記憶に残る体験ができた」との喜ばしい話が聞けました。

最後に当方から、「今日ポットに埋め込んだドングリは、学校で大事に育て、再来年の春にここへ植えに来ましょう」と挨拶し、イベントを終了しました。



服部教授の話しに聞き入る両小学校の児童たち



昆虫ベッドに落ち葉を入れ踏み固める萱野北小の児童たち



ポットに土入れをする豊川北小の児童たち



自慢の木工作品を手にする萱野北小の児童たち

その2. 箕面市立小学校及び幼稚園での取組

当センターでは、地元ボランティアの協力も得ながら、小学校では、11月17日(火)西南小学校5年生107名、幼稚園では、11月19日(木)とどろみ幼稚園園児35名と保護者、12月15日(火)せいなん幼稚園園児34名、かやの幼稚園園児60名、同16日(水)なか幼稚園園児41名、同17日(木)ひがし幼稚園45名による、クヌギ、コナラのドングリのポット埋め込み(「オオクワガタの棲める森づくり」の取組)を行いました。

最後に当方から、「土が乾かないよう水やりを忘れずにやって大事に育ててください。再来年の春には、^す「オオクワガタの棲める森」にみんなで植樹しましょう」と挨拶し、取組を終了しました。

なお、西南小学校及びひがし幼稚園は、今年から新たに当取組へ参加しています。



ドングリの埋め込みに夢中な西南小の児童たち



説明を熱心に聞くひがし幼稚園の園児たち

その3. 箕面市イベントに参加しPR

11月1日(日)、大阪府箕面市内のかやの広場において、箕面市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェア」が開催され、「オオクワガタの棲める森づくり」の取組を紹介したパネルを展示するなどPRを行い、参加者にクヌギ、コナラの苗木の育成を呼びかけました。

また、11月15日(日)には、箕面公園内の瀧安寺前広場において、「箕面の森の音楽会」が開催され、箕面市民イベントと同様にパネル展示等によるPRを行い、苗木の育成を呼びかけました。本イベントには、「オオクワガタの棲める森づくり」のイメージソングを作ってもらった彩さんが出演し、多くの参加者の前で「未来の森」を歌い、当取組のPRの一翼を担って頂きました。

なお、彩さんが歌う「未来の森」は、当センターのホームページ(<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>)上からもダウンロードできます。



市民イベントに「オオクワガタの棲める森づくり」のブースを出展



子どもたちにパネルを使って取組内容を説明



森の音楽会で「未来の森」を歌う彩さん



森の音楽会でもブースを出展

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策 ～大杉谷ワーキングチーム第1回会合を開催～

11月30日(月)及び12月1日(火)、奈良県川上村及び三重県大台町の大杉谷国有林において、大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を検討するため、学識経験者、地元関係者、関係行政機関、国有林職員によるワーキングチームの第1回会合を開催しました。

1日目は、川上村において会合を開催し、名古屋大学名誉教授の柴田勲氏に進行を頂き、当センター及び調査委託先の担当者から、

- 1 平成21年度自然再生推進モデル事業〈大台ヶ原地域(大杉谷国有林)〉実施計画、
 - 2 平成21年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査の調査分析(概要)、
 - 3 大杉谷・大台ヶ原における近畿中国森林管理局と環境省近畿地方環境事務所で連携して実施できる調査等の検討
- について順次説明し、検討を行いました。

委員からは、モニタリング調査について、「ルートセンサスだけでなく、糞塊調査やカメラのデータなどを総合的に判断して、他の地域や大台ヶ原の環境省のデータと比較し、ニホンジカの生息密度が高いか低いか、植生との関連でどういふところで見られるか、オスとメスの見える割合等を解析して報告されるとよい」などの意見等がありました。また、環境省との連携については結論が出ず、「大台ヶ原と大杉谷の両方で話し合い、その結果で次回検討させていただきたい」ということで会合を終了しました。

2日目は、大杉谷国有林に上がり、正木ヶ原周辺の森林において設定している固定プロット森林影響調査箇所のパッチディフェンス(防鹿柵)を現地踏査し、柵の中の植生の状況等を確認しました。



川上村で大杉谷WT第1回会合を開催し検討



大杉谷国有林でパッチディフェンスを現地踏査

「森林環境教育推奨事例集」の作成 ～選定会議を開催し34事例を選抜～

森林環境教育の取組をより確実かつ広範に推進し、実働性を上げていくためには、学校教育のとりわけ小学校の教育課程の中で展開することが求められています。

当センターでは、小学校と森林管理署等との具体的な連携・協力を念頭に置いて、今までに取り組みされてきた森林環境教育に関する様々な事例を、近畿中国森林管理局管内を中心に各道府県やボランティア団体、森林管理署等の協力を得て1,305事例を収集したところであり、この中から推奨すべき事例を選定し、秀抜を図ることとしたところです。

推奨事例の選定に当たっては、京都教育大学教授の山下宏文氏をはじめ高槻市立大冠小学校教諭の立花禎唯氏、林業家の波多野達二氏で構成する「森林環境教育推奨事例選定会議」に諮り、平成20年3月に改訂された小学校の学習指導要領に即した34事例が選抜・推奨され、今回、「森林環境教育推奨事例集」として取りまとめて頂きました。

本書は、小学校における学習指導要領に沿った単元学習とその展開にも活用できるよう取りまとめられており、教室や校庭での学習から国有林等の森林をフィールドとした学習まで、小学校と森林管理署等が連携・協力して、子どもたちの「生きる力」を育む森林環境教育の充実に役立つものと考えています。

製本した推奨事例集については、各森林管理局や近畿中国森林管理局管内の森林管理署等及び森林事務所等、ボランティア団体、府県などの事例の提供元等に配付するとともに、本年度の森林環境教育セミナーの受講生や箕面市内の小学校・中学校の先生にも配付し、森林環境教育の推進を図っているところです。



選定会議を開催し意見交換



推奨事例集

グループ対抗「里山デジカメ選手権」 ～琵琶湖博物館で公開の最終審査会を開催～

本年度は、「身近な森林の再発見」をテーマに募集したところ、北は新潟県、南は沖縄県までの15府県から、学校、森林ボランティア団体、法人、家族等のグループによる作品が83組、249枚寄せられ、その中から第一次審査で30組を選定し、11月7日(土)、滋賀県草津市の滋賀県立琵琶湖博物館において公開の最終審査会を開催しました。

当日は、写真家の今森光彦氏、農学博士の只木良也氏、フリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員に迎え、パワーポイントで映し出された作品のそばで、30グループの代表のメッセージが発表され、林野庁長官賞(最優秀賞)1組、琵琶湖博物館長賞1組、近畿中国森林管理局長賞(優秀賞)7組が入賞されました。

また、最終審査会に先立ち、青山氏を進行役に、今森氏、只木氏、当局から鳥取森林管理署関金森林事務所の下地頭所森林官(前滋賀森林管理署高島森林官)も加わり、「身近な里山」をテーマにミニトークショーを開催し、3名の方々から、普段の活動や里山との関わり、山や森の見方・楽しみ方などを話していただき、最後に青山氏から、「里山は本当に身近な存在で、優しい響きですが、木を育てていくこと、農業のこと、育てた木を使っていくこと等々、奥の深い課題があります。私たちは、少しでも多くその中に入って、皆さんにいろいろ感じていただいて、次に自分たちは何ができるのだろうか考えて行動していくことだと感じました」とまとめていただき、トークショーを終了しました。

入選された作品等については、琵琶湖博物館(11月8日～23日)、京都市上京区の近畿農政局消費者の部屋(1月4日～29日)で展示し、2月1日(月)から12日(金)までは、近畿中国森林管理局1階展示ギャラリーにおいて、応募のあった全作品の展示が行われました。

なお、入選作品は次のとおりであり、当センターのホームページ(<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai/>)上でもご覧いただけます。

	タイトル名	グループ名
林野庁長官賞	「菅平の黄門様」とお付きふたりが森をゆく	NPO法人やまぼうし自然学校
琵琶湖博物館長賞	生まれたよ～	トヨタの森
近畿中国森林管理局長賞	猿と暮らす	京都教育大学附属京都中学校
	棚田の春	広島県立庄原格致高等学校 写真部B
	赤沢ヒノキ林	NPO法人自然と緑
	次代の子供たちのために	京都乙訓ロータリークラブ
	里山の木のぬくもり	ファミリー
	おじいちゃん家のカエル?	ゆうみとこの自然を守ろうよ
	森は遊び場	しみずわんぱく隊



審査員、森林官によるミニトークショーを開催



グループの代表がメッセージを発表



林野庁長官賞(最優秀賞)を授与



琵琶湖博物館で入選作品等を展示

「森林環境教育セミナー」の開催 ～小学校・中学校の教職員を対象に実施～

8月21日(金)、大阪府箕面市の箕面国有林・勝尾寺園地周辺において、箕面市、豊中市の小学校・中学校の教職員等20名を対象に「森林環境教育セミナー」を開催しました。

当セミナーは、箕面市教育委員会との共催により、都市近郊に立地しながら多様で豊かな森林環境を有する箕面国有林を森林環境教育の活用場としての利用の推進を図るとともに、学校教育における森林環境教育の導入を促進することなどを目的として、京都大阪森林管理事務所、森林ボランティアの協力を得ながら「森林環境教育セミナー」を実施したものです。プログラムの内容は、京都教育大学教授の山下宏文氏による「森林環境教育の重要性と進め方」の講義から始まり、実際に間伐体験及び自然観察を兼ねたネイチャーゲーム、木工クラフト等を体験してもらうことで、授業等において森林環境教育が導入できるようなメニューとしました。

また、セミナーのまとめとして「ふりかえり」の時間を設け、それぞれの参加者が感想等を発表し、「山下先生の講義を聴き、森林が減っていないことに驚かされた。木を伐るなどいい体験をさせてもらった」、「間伐を体験したが、伐る木にすぐには触れなかったし、伐ってもなかなか倒れず苦労した。この体験は子どもにも言える」、「自然観察が趣味だが、知識以上に学ばせてもらった。自分で楽しんでこそ子どもに教えられと思う」、「10年前に子どもたちと園地内を回ったが、その時にビンゴゲームができれば楽しかったと思う」、「来年間伐体験を行うことにしている。自分で伐った木を使ったクラフトはおもしろい」など、森林環境教育の推進に期待できる話も聞けました。

最後に当方から、「本日の体験等を通し楽しく感じてもらったことを、子どもたちにも気づかせる方法としてふりかえりを伝授しましたので、学校の授業等に活用いただきたい」と挨拶し、セミナーを終了しました。



講義「森林環境教育の重要性と進め方」



間伐体験



自然観察を兼ねたネイチャーゲーム

インターンシップ(農林水産省就業体験実習)の受入 ～高等専門学校の学生1名を受け入れ実習～

8月17日(月)から21日(金)までの間、福井工業高等専門学校の学生1名を受け入れ、8月21日に箕面国有林・勝尾寺園地で開催した「森林環境教育セミナー」に関連する内容で実習を行いました。

実習の内容としては、17日は安全指導・企画書の作成、18日は勝尾寺園地でのスタッフによる事前踏査への参加・間伐体験、19日は木工クラフトの材料準備・木工クラフト体験、20日はスタッフ打合せへの参加・必要物品等の最終準備、21日は受講生としてセミナーに参加してもらいました。

実習は5日と短期間でしたが、実習生の野玉さんからは、「私が実習で学ばしてもらったことはほんのわずかなことだと思いますが、実際に職員の方々と同じ現場で5日間ともにすることで、現場の本当の雰囲気まで実感することができました。特に最終日の間伐などの林業体験は、職員の方々の手伝いをしながら、体験もさせてもらえたので、職員としての野外での仕事の内容と林業の現場の大変さを自分なりに実感することができました」との感想が寄せられ、この実習を通し学び、体験、感じたことを先生、友達等にも伝えていただくことを期待しています。



ネイチャーゲームの説明を熱心に聞く実習生の野玉さん(左から3番目)



作品の出来上がりにご満悦の野玉さん

第1回ふれあいセンター運営推進懇談会の開催 ～里山再生に取り組む一庫公園等を視察～

12月3日(木)及び4日(金)、大阪府箕面市の箕面国有林及び兵庫県川西市において、当センターの効率的な運営を推進するため、NPO法人地球緑化センター事務局次長の金井久美子氏、毎日新聞社京都支局長の北出昭氏、京都教育大学教授の山下宏文氏を委員とする本年度第1回目のふれあいセンター運営推進懇談会を開催しました。

1日目は、箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」において、平成19年度から取り組んでいる「オオクワガタの棲める森づくり」について当センターの担当から説明し、現在、箕面市内の小学生、幼稚園児、地域住民等に育ててもらっているクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹の植樹を行う展望台周辺を視察して頂きました。

その後、川西市の兵庫県立一庫公園に移動し、公園管理事務所の名和参事から公園の概要説明を受け、公園の設置目的にもなっているクヌギ萌芽再生林等を案内していただき、「オオクワガタの棲める森づくり」で目指している台場クヌギに代表される里山づくりを視察することができました。

2日目は、同じく川西市において懇談会を開催し、当センターの本年度の活動状況について、各担当者から説明を行いました。委員からは、「オオクワガタの棲める森づくり」について、「オオクワガタから歌まで発展していている。皆さんの努力の成果が出ている」、「アンケート調査で植林したいという希望が多かったということだが、植えたら育てることも同時に大切だと伝えることが大事」、「森林環境教育推奨事例集」については、「森林環境教育という、方法に関する活動や体験が主であり、内容が追いついていない部分があるという気がするので、そういったところも考えてもらいたい」などの意見等がありました。

最後に当方から、「本日いただいた意見等は、今後のセンターの活動に活かしていきたい」と挨拶し、懇談会を終了しました。

その後は兵庫県立大学教授の服部保氏に、先生が日本一の里山と絶賛する川西市黒川地区の台場クヌギ林を案内していただき、そのクヌギを使い、「池田炭」と呼ばれ茶道用の高級炭「菊炭※」を焼いているただ一軒の窯も見学し、里山整備、菊炭づくりとも重労働から従事する者がいなく、こうした見本となる里山を守っていくためには、担い手の育成が急務であることを実感したところで。

(※炭の切り口が菊の花の模様をしていることから、「菊炭」と呼ばれています。)



ひとくら
一庫公園の名和参事から公園の概要説明



川西市で懇談会を開催し意見交換



川西市黒川地区の里山整備を視察(正面が台場クヌギ)



黒川地区の菊炭づくりを見学



ユキツバキ

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
TEL:075-414-9049 / FAX:075-414-9029 URL:<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>
〒602-8054 京都市上京区西洞院通り下長者町下ル 京都農林水産総合庁舎1F

